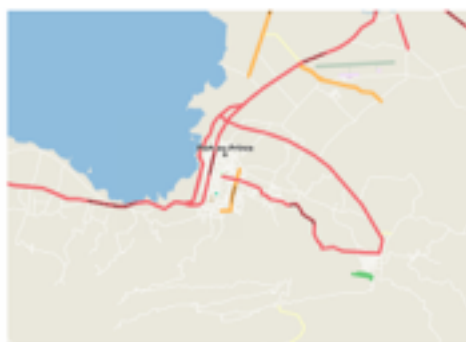


青山学院から世界へ。



空から見守る。みんなで見守る。
緊急時の市民発、
災害ドローン救援隊「DRONE BIRD」

自然災害や政治的暴動などが起きた際に、被災状況を詳細かつ迅速に取得できる最新鋭ドローンを現地に送り、現地の災害状況をマップ上に反映し、人命救助や支援活動のサポートを行います。最新鋭のドローンを正確に操縦できるパイロットを、市民の中から育成する計画を立ち上げました。それが災害ドローン救援隊「DRONE BIRD」です。



ハイチ地震前 @OpenStreetMap, ODbL



ハイチ地震後 @OpenStreetMap, ODbL

一刻も早く、現地の救援活動をスタートするためには、
一刻も早く、正確な地図をつくる必要があります。

我々マッパーは、被災地で撮影された写真を元に、世界でもっとも詳細で最新の「現地の被災状況マップ」をつくる非営利のチーム。国連や赤十字などの救援活動のために必要な情報支援として参画したり、2010年1月のハイチ地震、2011年3月の東日本大震災、2015年4月のネパール地震など多くの災害で、世界中のボランティアマッパーたちが現地やネット上に集まり、震災後の正確な地図をつくりました。

ドローンバードパイロット



万が一、人や建物に当たっても被害のない、小型軽量、最先端の無人飛行機が、現場に急行して空撮します。

ドローンバード開発部隊



撮影中に壊れたパーツや、新たに設計されたドローンを将来的に自分たちの力で作ることを計画しています。3Dプリンタやレーザー加工機など最新のデジタルファブリケーション機器でそれを実現します。

クライシスマッピング部隊



現場に急行したドローンが送ってきた画像を元に最新の状況を地図に反映。この地図は、関係各所を含め世界中にネット配信されるほか、紙地図として自由に印刷し、誰にでも配ることができます。

ドローンバード基地



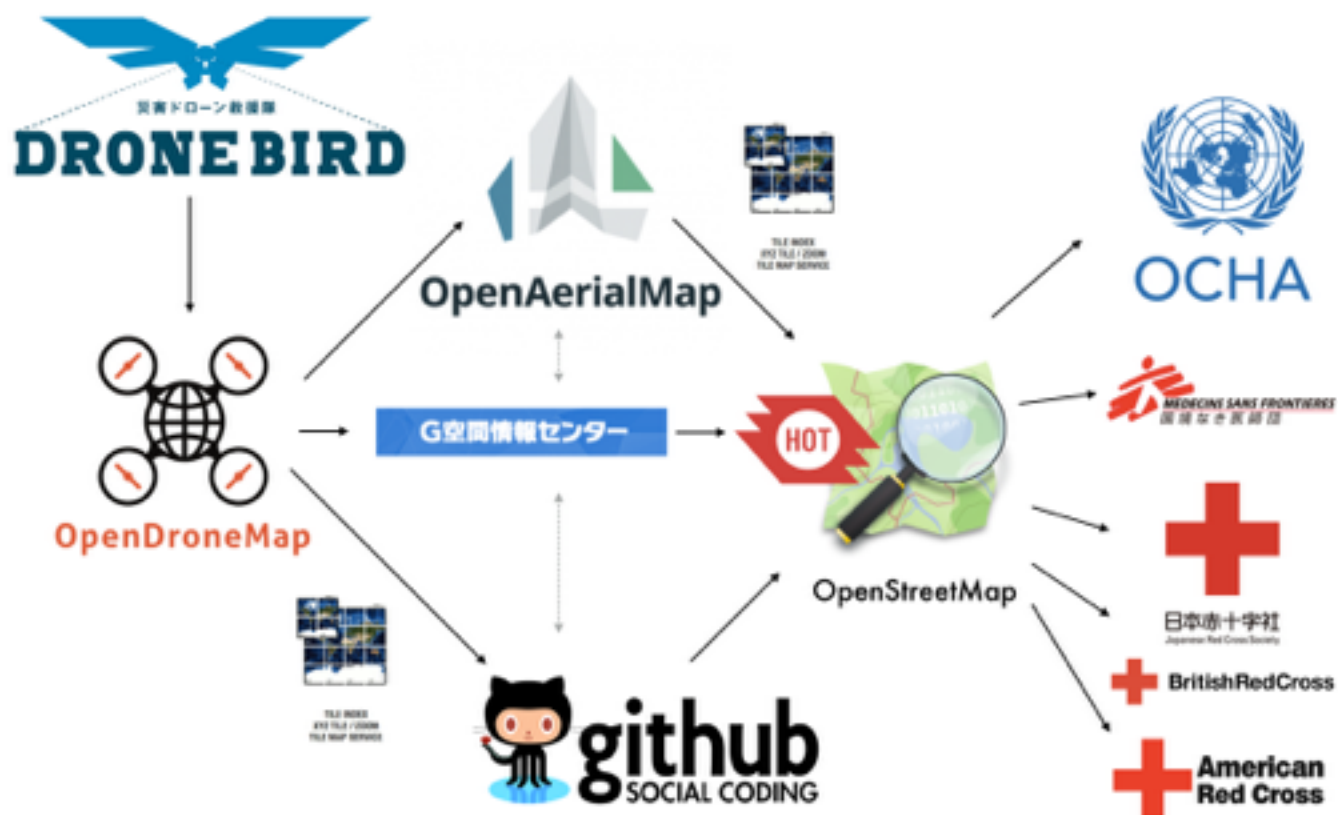
ドローンバードパイロット、ドローンバード開発部隊、クライシスマッピング部隊。それぞれのメンバーが日々その技術を磨き、自然災害の多い日本やアジア太平洋地域に、いざというときに機能するドローンバードの基地をつくります。

dronebird.org

発災後 2 時間で クライシスマッピング開始！

72時間以内の救急救命活動を支える
被災地の今を地図で支えます。

ドローンバード計画の飛行プランは、事前に撮影ルートを自治体と策定。自動操縦機能を用いて、発災後 1 時間以内の空撮フライトを行います。撮影したデータは回収後すばやく後処理を実施。目標 1 時間以内のオルソ/タイル化、合計 2 時間以内に撮影された航空写真がインターネット上で公開、クライシスマッピングがはじまります。



災害時におけるドローンバードの活動フロー



2017年現在、神奈川県大和市、埼玉県横瀬町との災害協定を結び、ドローンバードは航空法による災害時の救援救急活動の例外適用として迅速に行動できる体制を構築中です。また、日本全国の自治体にこの防災協定の輪が広がるよう働きかけを行っております。

